

## H30.5 《兵庫支部》 「伝えたい人」「伝えたい経験」について考えよう

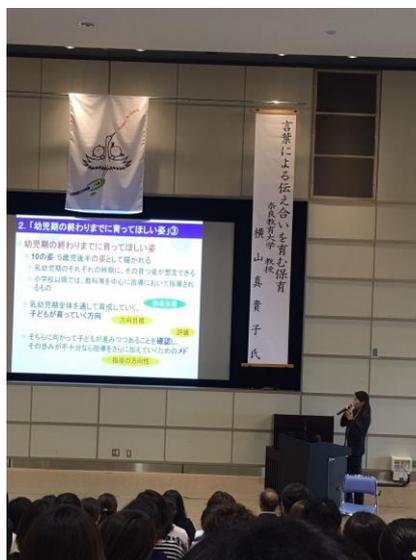
講師：横山 真貴子先生（奈良教育大学附属幼稚園長）

演題：「言葉による伝え合いを育む保育」

～乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の育ちを考える～

初夏のような暑さの中、347名の参加者と共に横山先生のお話しに聞き入りました。

幼稚園教育要領改訂を受け、各園ではそれぞれに実践が始まっていますが、「言葉による伝え合い」の観点から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について深く考えさせられました。1つの活動やエピソードだけでなく、多くの活動やエピソードが関連し、体験のつながりや重なりの中で、子どもは学び、育っていく。そこには、保育者の願いや思いがあり、子ども達の育ちのプロセスを確かに見取るまなざしが必要だと感じました。



また、「言葉による伝え合い」の力が育つには、「伝えたい人」と「伝えたい経験」が不可欠であるとのお話しに、子どもの発達を確かに捉える保育者の専門性と、話したくなる体験に出会わせる保育の工夫が必要であると実感しました。講話の中で、『乳幼児へのまなざし ～0歳児の集中力 空き缶あそび～』のDVDを見せていただきました。空き缶を投げる度に、クルクルンといろいろな回り方や音を出して止まる空き缶の楽しさに興じ、ひたすら繰り返し楽しむ乳児の姿と、ゆったりと寄り添う保育者の温かい声掛けに、乳幼児保育の楽しさと共に、子どもの育ちを信じて共に生活する私たちの仕事の尊さも感じることができました。

今回の、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時にほぼ同内容で改訂された意味や意義を理解し、乳幼児期の発達を学び合う必要性を感じました。また、小学校以降につながる「資質・能力」についても意識し、小学校の「学習指導要領」や小学校で行われている授業への関心も深め、「縦と横」のつながりを感じながら保育を見つめる大切さを感じさせていただきました。

IT化が進み、予測困難な未来に生きる子どもたちの育成は、「愛情」や「信頼感」や「伝え合う喜び」や「考える楽しさ」など、人としての豊かな情愛や感情、そして、それらに支えられた豊かな思考力が基礎になることを痛感しました。

全幼研の学び合いが、このような保育者の学び合いの礎になることも確信いたしました。

横山先生、貴重な学び合いの機会をありがとうございました。